九州歯会誌 57 (4) : 107 ~109, 2003.

歯科医療での POS 普及の必要性と問題点

中 野 充

ナカノ 歯科医院

平成 15 年 8 月 20 日受付

平成 15 年 8 月 25 日受理

The Necessity and Problems of Promoting POS in Dentistry

Mitsuru Nakano

Nakano Dental Clinic

POS was invented by Lawrence L. Weed, 1968.

This is a system of writing medical records, aiming at comprehensive medical-treatments, improving patients' quality-of-life as well as developing medical education and quality of medical treatment.

In Japan, this system has gradually been getting widespread, and Japan Medical-Association decided to promote the system in 2002.

While, in dentistry, it has hardly been prevailing, however, it will become popular quite soon because of the following reasons.

1. In aging society, there are many dental patients with other diseases due to the age. So this situation makes us cooperate with various kinds of medical workers.
2. Nursing care insurance has been effective, and 'taking-treatment-at-home' has been getting familiarized.
3. Medical records are going to be required to be open to the patients.
4. Taking 'post-graduated-training-course' has been mandatory.

However, POS should be promoted in consideration of the following problems.

1. POS has not been so well known in dentistry yet.
2. The necessity for POS is not relatively high in dental clinics in comparison to other medical hospitals.
3. It is not easy to spare time to write medical record according to POS forms in busy daily practice.
4. Taking this system causes the increase of expenses.

I am going to speak about the above according to my 7-year experience of POS.

Key words: POS/Dentistry

POS と歯科医療

米国の内科医 Lawrence L. Weed が 1968 年に考案した POS=Problem Oriented System (問題志向型システム) は, Patient Oriented System と呼ばれる。患者を中心に考え, 患者の抱える心身両面, さらに社会的問題をも把握し, その一つ一つに対応し, 問題を解決することにより全人的なケアをめざしている。記録は統一性があり, 誰が見ても分かり易い。これに対し, 従来からある体系を Diagnosis Oriented System または, Doctor Oriented System と呼び, 診断が決まれば, 処置も決まると云う考え方で, 記録はフリースタイルで統一性が無い。POS は, 患者の QOL の向上をもたらすと共に, 医学教育や医療の質の向上に大きな効果があると云われている。医科では 1973 年に日野原重明が日本に導入して以来, 医学教育機関や病院で次第に普及し, 1993 年には, 医師国家試験の出題基準が変更され, POS の考えが導入された。2002 年に日本医師会も POS に基づく診療記録を推奨している。一方歯科界に POS が導入されたのは随分と遅れ, 1991 年の歯科衛生士向け厚生大臣指定講習会のテキストに「新しい業務記録の応用」として紹介されたのが初めてのようである。しかしながら,

- ① 当時, 歯科医に POS の認識が殆ど無かった
- ② 医科と歯科の疾病構造の違い
- ③ 病院と歯科診療所のシステムおよび, 規模の違いなどのために殆ど応用されなかった。

ようやく, 1996 年に歯学部臨床教育の向上のために, 全国歯科大学学長会議で歯学教育に POS の導入が決められ, 歯科大学では導入され始めたが, 歯科医院で応用しているところは非常に少ない。

当院の POS の実際

筆者は, 全人的医療をめざす POS の高邁な理念に惹かれ, 患者さんの QOL やチーム医療の向上の目的で, およそ 7 年前から自分の診療所に POS を導入し, 試行錯誤しながら実践している。

以下に POS の構成と当院の応用の要点を記す

・当院の POS の構成

基礎データ→問題リスト→治療計画・教育計画→経過記録→終了時要約→監査・修正

・応用の要点

- ① 問題リストは, DMPS 方式としている。
問題を Dental problem (歯科的問題), Medical

problem (医科的問題), Psychological problem (精神的, 心理的問題) Socio-economic problem (社会的, 経済的問題) の 4 つに分類し, 並べる。

② 治療計画を歯科医が立案し, 教育計画は歯科衛生士が立案する。

③ 経過記録は, SOAP 方式で行う

POS 導入のメリットとデメリット

POS の 7 年間の応用を通して, 以下のようなメリットとデメリットを実感する

・メリット

- ① 診療記録が誰が見ても分かり易い。
- ② チーム医療の円滑化が図れる。
- ③ 患者さんについて, より多くの問題を把握できる。
- ④ 臨床能力を養える。
- ⑤ 診療の質が上がる。
- ⑥ 全人的歯科医療を目指す基盤となる。

・デメリット

- ① 診療記録が多くなり, 記録作製に手間と時間が掛かる。
- ② スタッフの労働負担と診療所の経費が増加する。
- ③ システムを遂行することにとらわれ過ぎると, 患者さんへの配慮や自由な発想, および柔軟性を欠く恐れがある。

患者さんの反応

基礎データ収集の中で, 今までに受けた歯科医療の感想や, 治療に対する要望などをアンケートで聞いていることは, とても良い事と患者さんの高い評価を得ている。また, 診断の後, カウンセリングの時間を設けることで, 説明が行き届いて安心できるとの評価が多い。総じて POS の応用で, 患者さんの信頼感を増していると考えている。

スタッフの反応

当院のスタッフは, POS の応用について, 「欠点もあるが利点が多く, やりがいがあるので改善しながら続けたい」, 「もう少し記録のための時間的余裕がほしい」などと思っているようである。

歯科医療での POS 普及の必要性

以上述べたように, 応用の価値の高い POS の普及が非常に遅れている歯科界であるが, 近年になって

① 超高齢社会になり、歯科治療を受ける患者に有病者が多くなり、他科との連携の必要性が増してきた。

② 介護保険の実施や在宅医療の普及で、様々な職種のスタッフとチームプレーを要求されるようになった (POS は医療、介護のスタッフの共通言語である)

③ 医療情報の開示が要求されるようになった。

④ 卒後研修制度の普及

などから、歯科医院にも POS 応用の必要性が高まり、日本歯科医師会も日本歯科医師会雑誌 2003 年 2 月号に POMR の特集を掲載した。

歯科医療での POS の普及を妨げる問題点

上述のように、歯科医療でも POS 普及の必要性が高まっているが、筆者は以下の問題がそれを妨げていると感じている。

① 歯科界に未だ POS が広く知られていない。

② 歯科医院では、POS 導入の必然性が医科の病院ほど高くない。

③ 記録作製の時間を、診療時間内に確保しにくい。

④ 医院経費が増加傾向になる。

それらを解決するには、次のような事が必要と考える。

① 歯学教育や歯科大学付属病院に、POS をもっと普及させる。

② 歯科診療報酬のソフト部分 (例えば診療記録に要するコストや、治療計画作成のコスト) を、適正に評価する。

③ 診療記録の細部にわたる公的な規制は可及的に少なくし、自発的な記録の充実を勧奨する。

以上、POS の 7 年間の実践を通して、POS の普及の必要性和それを妨げている問題点および、その対策を中心に述べた。歯科界に POS が普及する事を心から願うものである。

参考文献

- 1) 日野原重明: POS の基礎と実践. 医学書院, 東京, 1980.
- 2) 日本歯科衛生士会編: 歯科保健指導における業務記録. 医歯薬出版, 東京, 1991.
- 3) 林 茂: わかりやすい POS. 照林社: 小学館, 東京, 1991.
- 4) 植村研一: 医療人の情意教育の現在と将来. 薬業時報社, 東京, 1991.
- 5) 濱田みゆき, 土井裕美, 高田理恵, 関林みどり: 新しい業務記録を考える～POS を応用して. 日本歯科衛生士会雑誌 22: 92-93, 1993.
- 6) 香月 武, 後藤昌昭, 今村英夫, 豊田純一郎: POS による診療記録の書き方. ザ・クインテッセンス 14: 71-80, 1995.
- 7) 関根 弘: POS 教育の必要性和シンポジウムの趣旨. 日本歯科医学教育学会雑誌 12: 70-71, 1996.
- 8) 歯科大学学長会議編: 歯科医学教授要綱 (平成 8 年版). 医歯薬出版, 東京, 1996.
- 9) 中野 充: 個人歯科診療所への POS の導入. ザ・クインテッセンス 16: 71-84, 1997.
- 10) 長 美智恵, 岡野順子, 山上 幸: ご存知ですか? POS. デンタルハイジーン 19: 72-75, 177-182, 283-288, 347-350, 476-481, 1999.
- 11) トリシャ・グリーンハル, ブライアン・ハーウイツ (編) 斎藤清二他 (訳): ナラティブ・ベイスド・メディスン. 金剛出版, 東京, 2001.
- 12) 伊東隆利: 私のカルテ作法. デンタルダイヤモンド 27: 27-45, 2002.
- 13) 中野 充: 歯をまもる (診療記録の充実). 医歯薬出版, 東京, 2002, 273-278.